

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600123		
法人名	株式会社エクセレントケアシステム		
事業所名	えくせれんと岡崎(2階)		
所在地	京都市左京区岡崎南御所町38-1		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690600123-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	令和2年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所満7年を経て、反省と考察を繰り返し、介護の質の向上への弛まぬ努力を関係者が一丸となって行っております。全職員が同じ方向を見えています。
 住み慣れた土地に近いところで、終身暮らせること、ご家族との触れ合いを絶やさないこと、地域と交流のあること。自分のしたいことを実現できること。ユニットというグループ(社会)の中で、役割を持ち、やりがい、生きがい、喜びが日常にあること。それら実現の一助として職員は、出しゃばりすぎず離れすぎず、大切なことは細かに対応すること。
 笑顔や元気な表情が一日中絶えないこと、言葉で書くのは簡単ですが、それを本当に実現しようとしています。
 心から仕事と社会に感謝し、誠実に日々を過ごす職員の集団が出来つつあるのではと実感しております。
 一日中、どこかのフロアから絶えず歌声と笑い声の聞こえる施設になれば喜んでもらえるかなといつもみんなで話しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、平安神宮や動物園・美術館が徒歩5分圏内に位置し、昔ながらの町並みと新しいマンションが融合した地域が生活圏域となっています。コロナ禍の中、早い時期からリモートでの面談を実施、事業所としても感染対策を徹底しています。地域の催事への案内を受けて参加したり、事業所が主催する夏祭りやクリスマス会などに、地域の方や子供達に参加したりするなど交流を楽しんでいます。また、地域包括とは良好な関係を築き、催しへの案内を受け参加、近隣小学校で開催される認知症サポーター養成講座を引き継いで実施しています。実習生も積極的に受け入れ、2か所の大学の看護学生がリモートでの研修を受けています。日々の活動としては、職員の特技を活かした紙芝居や楽器演奏、手品、和・洋菓子作り、入居者との共同作業で作成した段ボールで作る甲冑や長刀鉾(コロナ退散祈願)以外に、ボランティアによる大正琴やオカリナ演奏、各種コンサートなどの催しがあります。職員は一丸となって、入居者の思いの把握に努め、本人本位の視点で本人に寄り添ったケアを実践することで、事業所内は笑顔や笑い声で溢れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスのあるべき姿を追い続けている。会社が掲げる理念である、①五つの行動理念②三つの理念③Jの介護を実現するべく努力の毎日である。	会社の理念と共に、入居者がホームの生活の中で声にした「人生が晴れる」を事業所独自の理念として、各フロアに掲げています。管理者は毎日10時頃に各フロアを巡回し、職員一人ひとりに声かけを行い、理念の共有と周知に努めています。職員は入居者の思いやできることを大切にして、「本人本位」のケアが実践できるよう常に寄り添っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会、公園体操、町内催事・神事には積極的に交流を持っている。大きなイベントにも参加している。	町内の氏子会に入会し、神事への協力を行うことで毎年事業所に神輿が立ち寄ります。重度の方も屋外に出て、皆で祭りごとへの参加を楽しんでいます。事業所主体の夏祭りやクリスマス会には地域の方や子供たちも参加して、入居者との交流を楽しんでいます。近隣の幼稚園のバザーに参加したり、手作りカレーの日には地域の方の参加を募ったりしています。地域行事でも管理者がギターを演奏するなど、積極的に交流を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢サポート・左京南様より引き継ぎ、文教小学校様で認知症あんしんサポーター講座を、毎年主催させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的に議事録に記録し、運営内容・取り組み・改善前後・施設を取り巻くいろいろなことを広く報告している。もちろん、サービス向上が一番の目標である。	入居者・家族・地域包括・老人福祉員・地域代表・元町内会長などが参加して、忌憚ない意見の交換が行われています。毎月発行する「花だより」以外にも、消防訓練の様子や地域行事への参加の様子、さらに日頃の様子などを文字や写真でわかりやすく報告しています。コロナ禍の中で開催できないときも、議事録で状況報告を行い、家族や行政、関係機関に配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会には必ず出席し、情報を得ている。細かな相談も遠慮なく担当者に行っている。	コロナ禍の中、運営推進会議開催の中止を余儀なくされていますが、事業所の取り組みや報告を記載した議事録と広報誌を役所の窓口を持参することで、顔の見える関係性を構築できるよう努めています。地域包括とは良好な関係を築いており、随時連携を図りながら、地域の小学校で開催する認知症サポーター養成講座も事業所が主体となって実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、施錠はしないている。フロアの玄関口は、換気の意味も含めて開放していることが多い。建物入り口は、オートロックで施錠しているが、安全確認の上、時々開放する。施錠していても、出入りの希望を阻止することはない。	年2回「身体拘束の排除のための取り組みに関する研修」を実施、月1回開催する全体会議でも周知と振り返りを行っています。特に接遇やマナーに重きを置いているため、日常的にスピーチロックに配慮したケアが実践されています。不適切な言動があった際は、管理者からの指導以外にも、職員同士が、その場で注意し合える関係性を築いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①委員会活動、②入職初日座学、③毎月初の入職者研修④全体研修会 で虐待を必ず取り上げ防止の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会のテーマに挙げる予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にかかわらず、問い合わせ時から契約後も、不安、疑問点の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として毎年アンケートを実施、現場にフィードバックし改善に努めている。 玄関にご意見箱を設けていたが稼働せず、取り外した。日常の会話や、書面で忌憚なく発言いただける雰囲気作りをしている。	コロナ禍の中、面会制限があるため、早い時期からリモートでの面談を実施、手紙や電話でのやり取りも行っており、家族とは更なる信頼関係の構築に繋がっています。家族から職員の顔写真を掲示してほしいとの提案があり、すぐに玄関入口に掲示しています。また、医療との連携に関して相談があった際も、早急に家族と往診医が面談できるよう連携を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議・役員と管理者のワンオンワンミーティング・運営検討会議で運営側の意思統一を図り、管理者は職員の意見・提案に敏感であり、意見は双方向に届き反映できるように体制を作っている。	管理者は毎日各フロアを巡回し、職員一人ひとりに声をかけて信頼関係を築けるよう努めています。音楽を楽しめるようにと職員が電子ピアノを寄付したり、食事を楽しむために「47都道府県駅弁まつり」の提案を行ったり、またコロナ禍で、筋力低下を防ぐための運動プログラムを提案したりしています。職員からの提案はすぐに運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	あらゆる環境の整備・改善に積極的である。ここで人生の花を咲かせずどこで咲くのかと感じさせてくれる(頑張ろうと思わせてくれる)代表者である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間、約140回の社内研修が実施されておりテーマ毎に受講に適した職員が参加している。 逐次、OJT OFFJTトレーニングが実施される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内ではあるが階層別集合研修会が逐次実施される。 同業者との交流は事業所主体で行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居までに、ご本人と十分に情報をやり取りし、ホームでの生活が安心・快適であるようになるための計画を立て、信頼関係を築くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同じく、ご家族とも同時にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築を最初の任務と認識し行動している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシート・アセスメントシート・サービス担当者会議・ケアプランに可能な限り情報を盛り込み、必要なサービスを立てるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に行動し、共に泣き笑い、自己決定が自然にできる環境づくりに余念がない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでも自由にいただいている。 催事にも必ずお誘いし、ご家族にも役割を持っていただき、一体感のある関係性が保たれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に参加や実施している地域催事・買い物・公園体操では旧知の方に再会されることがよくある。	地域で開催されている公園体操に参加したことで馴染みの方との交流が再開したり、ウォーキングが趣味の方と一緒に吉田山まで出かけたりしています。また、家族と連携を取りながら自宅での連泊支援も行っています。書道や謡い以外にも、商売をされていた方へはそろばんの練習、洋裁の仕事を行っていた方へは縫物など、趣味や特技の継続支援を積極的に行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットは、9人の生活の場でありながら、9つの舞台が重なり合ったものであると認識している。個を大切にしながらユニットのなかはいつも仲の良い社会がある状態であるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、地域住民代表として運営推進会議に出席くださる方もおられる。関係の継続を可能な限り実現できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左記の文言の通りに努めている。	昨年度の外部評価後の目標達成計画に掲げた取り組みを職員が一丸となって実践したことで、一人ひとりの思いの把握や趣味の継続支援につながることができています。家族からの聴き取りや入居者の日常会話からも「人となり」の把握を行い、入手した情報から生活歴を紐解くことで、本人の尊重した「本人本位」のケアが実施されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを基本にし、現役時代の生活を知り、それを基盤に日常生活の希望・意向を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記の文言通りに努め、ご本人、ご家族、職員、連携医療機関と情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	25の回答と同一である。	本人の思いに沿った介護計画にするために、本人・家族から随時聴き取りを行っています。本人の思いをニーズとして捉え、一人ひとり個性を持った目標を作成しています。日々サービス内容を確認しながら、毎月目標が達成出来ているかの評価を行っています。6か月ごとに再アセスメントを実施し、本人・家族以外に医師・看護師・訪問マッサージ師など多職種が参加して、介護計画の見直しを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月例のユニット会議で活発な意見交換をしている。急を要するものは即日対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに最大限答えられるように努めている。外泊、臨時受診、同窓会、コロナ予防テレビ面会、花火大会、日帰り遠足、手作り柔らかか食、コロナ自粛期間の頻回なご家族への情報発信。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を最大限利用する努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はフットワークが大変軽く、ご本人やご家族の意向をくみ取ってくださる。研修もして下さる。	入居時に説明を行い、協力医療機関以外にかかりつけ医の継続を希望される方もいます。往診時は職員が医師に生活や身体状況を報告し、受診時は職員が付き添い入居者の状態を伝えていきます。協力医療機関とは24時間オンコール体制を取り、随時相談できる体制を取っています。かかりつけ医とも良好な関係性を築き、連携を図ることで家族の安心へとつながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	迅速に情報共有・相談を実行している。また、リモート掲示板も用いて画像・動画・テキストでの情報共有もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院発生時、病院関係者とは連絡を密に取り、入退院時はスムーズな展開になるべく良好な関係を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期に関する指針を説明しており、必要に応じて対応法の希望の変更を随時確認している。	入居時に重度化や終末期に関する指針の説明を行い、本人・家族に同意を得ています。看取りケアの研修を実施、職員一人ひとりの研修報告書を全職員に回覧することで更なる周知を図っています。看取り期には看取りプランを作成、看取りケアを時系列に記録しています。さらに「デスクンファレンス」を開催し、ケアの振り返りを行うことで質の向上へとつないでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最近の入職者が複数あり、既存の職員の技術も手薄感が否めない。防災面も含めて研修に注力する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	34に同じ。消防訓練のほかに、避難訓練を行っている。運営推進会議で、被災時の対応を告知している。	消防署の協力を得て年2回(内夜間想定1回含む)消防訓練を実施、水害を含む災害訓練も事業所独自に実施しています。その訓練の様子は議事録や写真に残し、運営推進会議で報告しています。法人として南海トラフを想定した「BCP活動」にも取り組んでいます。備蓄品としては水やカンパン、米類以外にもオムツやパットも常備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社長を筆頭に、接遇・マナーの在り方は会社として重要視しており、理念の一つでもある。全職員がお一人お一人に丁寧な対応を心掛けるように努めている。	介護理念の一つである「高品質な接遇・マナー」を研修で学ぶと共に、認知症の方という見方ではなく、一人の人間として人格を重んじるよう支援しています。一人ひとりの「人となり」を尊重し、本人の思いやできることを大切にすることで、本人が自信をもって生活ができるように丁寧に声かけや支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に対する管理・監督・指示・命令を職員に対して厳しく戒めている。ご本人の意向を必ずうかがって支援するようにしている。希望の表出も見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、ご本人のペースと希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある着衣と、希望に応じて化粧もしていただく。その方らしいスタイルを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な部分を自主的されている。おいしくて季節感のある食事になるように工夫を凝らしている。弁当大会・鍋大会・バーベキュー大会・駅弁大会・手作り鯖寿司・流しそうめん・ハンバーガー大会など	四季折々の食事が楽しめるよう、また味だけでなく見た目でも楽しめるように、盛り付けや器に工夫を凝らしています。大きな調理台やテーブルを囲み、一人ひとりできることを行いながら、食事の準備にも積極的に参加しています。おやつ以外にも毎月開催しているお茶会の和菓子やお誕生日会のケーキも手作りしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食について、絶えず様々な面から観察・検討・工夫・改善を実行している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の心身の状態を把握し支援の必要な方には、個別対応を実施している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた取り組みを行っています。入院中にオムツ対応であった方が、退院後リハビリパンツへ変更された事例があります。さらに、水分摂取や食事内容を工夫することで自然な排便が行えるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に運動不足や水分摂取不足の方々(便秘傾向)への対応は必要に応じてかかりつけ医と連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番は一応決めているが柔軟に個別対応をしている。毎月26日はふろの日で、主に天然素材を用いて香りを楽しむ日としている。乾燥シーズンは、保湿入浴剤を用いる。	午前午後を問わず、入浴方法も入居者の体調に配慮して臨機応変に対応しています。重度の方も職員2人で介助することで、個浴での入浴を行っています。毎月26日は「ふろの日」として、柑橘類や桃、菖蒲など天然素材を用いることで、入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境は、個別対応でご本人の嗜好に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しい服用支援は勿論、体調変化観察や、作用・副作用についても理解して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・買い物・裁縫・書道・写経・歌唱・図工・調理・洗濯・体操・掃除などご本人の趣味・興味を理解して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一時帰宅・買い物・散歩・遠足・外食・施設外の催事参加など、積極的にご本人の意向を伺って支援している。ご家族と行動を共にすることも多い。	コロナ禍の中、感染対策を行いながら、日常的に近隣への散歩に出かけたり、お弁当持参で岡崎公園まで出かけていたりしています。徒歩5分以内にある動物園や平安神宮・美術館へも車いす対応で出かけています。さらに、家族との食事や催しへの参加なども積極的に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つことが現時点ではあまり意味をなさない。施設内疑似紙幣を作り、動作(労働と位置付ける)に対して給料を提供し、商品購入(肩もみ券・動物園入場券など)をしていただく案を計画中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にさせていただいている。コロナ禍にあってはリモートテレビ面会をご希望通りに実施している、収束後も定番化しようと考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活動線に危険なものは放置しない。心穏やかでいられるような環境を維持するようにしている。季節感のある装飾を皆で作り上げるように心がけている。	イベントごとにテーブルのレイアウトを変更することで、入居者がアクティビティを楽しんだり、食事を楽しんだりできるよう工夫がなされています。大きな調理台を囲んで食事の準備をしたり、立位を保ったりすることでフレイル予防にもつながっています。さらに、共用空間には笑い声が絶えず、皆が心地よく集える居場所となっています。	共用空間は生活しやすいように動線への配慮がなされており、季節感のある飾りつけや入居者の作品も心地よく飾られていますが、浴室内の脱衣場(リネン室を兼ねる)の整理整頓がなされていませんでした。洗剤などを含めて収納の仕方などを工夫されることをお勧めします。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性のいい方同士が隣席になるとそれだけで、雰囲気は柔らかくなる。たえず、ご本人にとって良い環境になるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを自由にお持ち込みいただいている。居室で自宅の再現ができるように支援している。	限られた居室スペースの中にも、洗面台が設置されています。できるだけ自宅のような設えになるようにと家族の協力を得て、馴染みの調度品を持ち込んでいます。家具の上にはテレビ以外に家族写真や趣味の作品、大切な小物などが置かれ、整理整頓がきちんとされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レイアウト自在のダイニングテーブルを導入した。調理台は複数で集えるように置より大きなサイズにリフォームした。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600123		
法人名	株式会社エクセレントケアシステム		
事業所名	えくせれんと岡崎(3階)		
所在地	京都市左京区岡崎南御所町38-1		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690600123-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	令和2年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所満7年を経て、反省と考察を繰り返し、介護の質の向上への弛まぬ努力を関係者が一丸となって行っております。全職員が同じ方向を見えています。
 住み慣れた土地に近いところで、終身暮らせること、ご家族との触れ合いを絶やさないこと、地域と交流のあること。
 自分のしたいことを実現できること。ユニットというグループ(社会)の中で、役割を持ち、やりがい、生きがい、喜びが日常にあること。
 それら実現の一助として職員は、出しゃばりすぎず離れすぎず、大切なことは細かに対応すること。
 笑顔や元気な表情が一日中絶えないこと、言葉で書くのは簡単ですが、それを本当に実現しようとしています。
 心から仕事と社会に感謝し、誠実に日々を過ごす職員の集団が出来つつあるのではと実感しております。
 一日中、どこかのフロアから絶えず歌声と笑い声の聞こえる施設になれたら喜んでもらえるかないつもみんなで話しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階に同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(3階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスのあるべき姿を追い続けている。会社が掲げる理念である、①五つの行動理念②三つの理念③Jの介護を実現するべく努力の毎日である。	2階に同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、公園体操、町内催事・神事には積極的に交流を持っている。大きなイベントにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢サポート・左京南様より引き継ぎ、文教小学校様で認知症あんしんサポーター講座を、毎年主催させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的に議事録に記録し、運営内容・取り組み・改善前後・施設を取り巻くいろいろなことを広く報告している。もちろん、サービス向上が一番の目標である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会には必ず出席し、情報を得ている。細かな相談も遠慮なく担当者に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、施錠はしないで行っている。フロアの玄関口は、換気の意味も含めて開放していることが多い。建物入り口は、オートロックで施錠してるが、安全確認の上、時々開放する。施錠していても、出入りの希望を阻止することはない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①委員会活動、②入職初日座学、③毎月初の入職者研修④全体研修会 で虐待を必ず取り上げ防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会のテーマに挙げる予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にかかわらず、問い合わせ時から契約後も、不安、疑問点の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として毎年アンケートを実施、現場にフィードバックし改善に努めている。 玄関にご意見箱を設けていたが稼働せず、取り外した。日常の会話や、書面で忌憚なく発言いただける雰囲気作りをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議・役員と管理者のワンオンワンミーティング・運営検討会議で運営側の意思統一を図り、管理者は職員の意見・提案に敏感であり、意見は双方向に届き反映できるように体制を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	あらゆる環境の整備・改善に積極的である。 ここで人生の花を咲かせずにどこで咲くのかと感じさせてくれる(頑張ろうと思わせてくれる)代表者である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間、約140回の社内研修が実施されておりテーマ毎に受講に適した職員が参加している。 逐次、OJT OFFJTトレーニングが実施される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内ではあるが階層別集合研修会が逐次実施される。 同業者との交流は事業所主体で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居までに、ご本人と十分に情報をやり取りし、ホームでの生活が安心・快適であるようになるための計画を立て、信頼関係を築くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同じく、ご家族とも同時にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築を最初の任務と認識し行動している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシート・アセスメントシート・サービス担当者会議・ケアプランに可能な限り情報を盛り込み、必要なサービスを立てるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に行動し、共に泣き笑い、自己決定が自然にできる環境づくりに余念がない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでも自由にいただいている。催事にも必ずお誘いし、ご家族にも役割を持っていただき、一体感のある関係性が保たれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に参加や実施している地域催事・買い物・公園体操では旧知の方に再会されることがよくある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットは、9人の生活の場でありながら、9つの舞台が重なり合ったものであると認識している。個を大切にしながらユニットのなかにはいつも仲の良い社会がある状態であるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、地域住民代表として運営推進会議に出席くださる方もおられる。関係の継続を可能な限り実現できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左記の文言の通りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを基本にし、現役時代の生活を知り、それを基盤に日常生活の希望・意向を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記の文言通りに努め、ご本人、ご家族、職員、連携医療機関と情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	25の回答と同一である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月例のユニット会議で活発な意見交換をしている。急を要するものは即日対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに最大限答えられるように努めている。 外泊、臨時受診、同窓会、コロナ予防テレビ面会、花火大会、日帰り遠足、手作り柔らかか食、コロナ自粛期間の頻回なご家族への情報発信。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を最大限利用する努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はフットワークが大変軽く、ご本人やご家族の意向をくみ取ってくださる。研修もして下さる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	迅速に情報共有・相談を実行している。また、リモート掲示板も用いて画像・動画・テキストでの情報共有もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院発生時、病院関係者とは連絡を密に取り、入退院時はスムーズな展開になるべく良好な関係を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期に関する指針を説明しており、必要に応じて対応法の希望の変更を随時確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最近の入職者が複数あり、既存の職員の技術も手薄感が否めない。防災面も含めて研修に注力する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	34に同じ。消防訓練のほかに、避難訓練を行っている。運営推進会議で、被災時の対応を告知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社長を筆頭に、接遇・マナーの在り方は会社として重要視しており、理念の一つでもある。全職員がお一人お一人に丁寧な対応を心掛けるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に対する管理・監督・指示・命令を職員に対して厳しく戒めている。ご本人の意向を必ずうかがって支援するようにしている。希望の表出も見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、ご本人のペースと希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある着衣と、希望に応じて化粧もしていただく。その方らしいスタイルを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な部分を自主的されている。おいしくて季節感のある食事になるように工夫を凝らしている。弁当大会・鍋大会・バーベキュー大会・駅弁大会・手作り鯖寿司・流しそうめん・ハンバーガー大会など		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食について、絶えず様々な面から観察・検討・工夫・改善を実行している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の心身の状態を把握し支援の必要な方には、個別対応を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に運動不足や水分摂取不足の方々(便秘傾向)への対応は必要に応じてかかりつけ医と連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番は一応決めているが柔軟に個別対応をしている。毎月26日はふろの日で、主に天然素材を用いて香りを楽しむ日としている。乾燥シーズンは、保湿入浴剤を用いる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境は、個別対応でご本人の嗜好に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しい服用支援は勿論、体調変化観察や、作用・副作用についても理解して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・買い物・裁縫・書道・写経・歌唱・図工・調理・洗濯・体操・掃除などご本人の趣味・興味を理解して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一時帰宅・買い物・散歩・遠足・外食・施設外の催事参加など、積極的にご本人の意向を伺って支援している。ご家族と行動を共にすることも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つことが現時点ではあまり意味をなさない。施設内疑似紙幣を作り、動作(労働と位置付ける)に対して給料を提供し、商品購入(肩もみ券・動物園入場券など)をしていただく案を計画中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にさせていただいている。コロナ禍にあってはリモートテレビ面会をご希望通りに実施している、収束後も定番化しようと考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活動線に危険なものは放置しない。心穏やかでいられるような環境を維持するようにしている。季節感のある装飾を皆で作りに上げるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性のいい方同士が隣席になるとそれだけで、雰囲気は柔らかくなる。たえず、ご本人にとって良い環境になるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを自由にお持ち込みいただいている。居室で自宅の再現をできるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レイアウト自在のダイニングテーブルを導入した。調理台は複数で集えるように畳より大きなサイズにリフォームした。		